

1 令和8年度の質問調査の結果（岐阜県）から見えてきたことは何でしょうか？

児童生徒質問調査及び学校質問調査には、学習指導要領や生徒指導提要等で述べられている、「このような児童生徒を育成したい」という願いが込められている質問が多くあります。とりわけ、児童生徒質問調査によって、当該学年児童生徒の学習と生活の状況について、その特徴や傾向を読み取ることができます。

（1）授業改善に関する取組状況

授業の中で、児童生徒が自らの学習を主体的に調整できるように工夫しましょう。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合（％）		
			岐阜県（R8）	全国（R8）	全国との差
小	38	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。	26.3	25.8	0.5
中	38		26.0	22.6	3.4
小	39	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	31.2	28.3	2.9
中	39		34.5	27.0	7.5
小	40	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	27.3	26.9	0.4
中	40		28.9	23.1	5.8
小	41	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	37.5	34.9	2.6
中	41		29.3	25.3	4.0
小	42	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	44.5	43.5	1.0
中	42		45.7	39.6	6.1

「授業で工夫して発表していた」「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」「学んだことを生かしながら考えをまとめていた」等、「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている児童生徒は、**小・中学校とも全国平均より高い**ことが分かります。

主体的に学習を調整できていると考える児童生徒は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。**主体的に学習を調整できていると考える児童生徒の方が、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。**

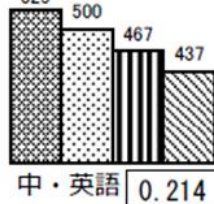
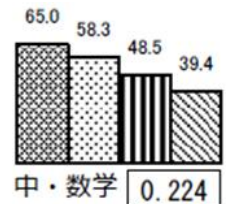
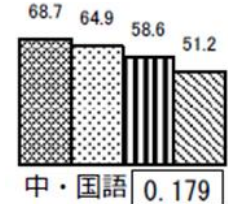
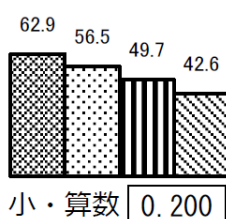
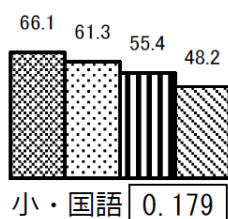
主体的な学習の調整

小	22	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	31.6	28.7	2.9
中	22		33.9	27.4	6.5
小	43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	33.0	31.4	1.6
中	43		34.5	29.3	5.2

「**学びの主体的な調整**」ができていていると考えていると考える児童生徒ほど、**正答率・スコアが高い傾向にあります。**

できている
 どちらかといえば、できている
 どちらかといえば、できていない
 できていない

クロス集計



「**主体的・対話的で深い学び**」の実現に向けた授業改善を進めるためには、児童生徒が学習の見通しをもち、よりよく学ぶことができるよう方略を工夫したり、振り返ったりしながら、自らに適した学習過程となるよう調整できる機会を計画的に取り入れるよう工夫することが大切です。

児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けたり、単元・題材等の計画や評価規準を児童生徒とあらかじめ共有したり、よりよく学習するための方略を教師や他者の取組から学び自ら工夫できるようにするなど、個に応じた学習過程の充実を目指しましょう。

(2) ICT の活用と情報活用能力に関する学習状況

児童生徒が ICT を活用することに自信がもてる環境づくりをしましょう。

ICT 機器の活用頻度

校種	質問番号	質問項目	「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R8)	全国 (R8)	全国との差
小	35	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。	31.7	20.5	11.2
中	35		55.2	29.3	25.9

ICT 機器の活用頻度に関して、「ほぼ毎日」使用していると回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均より高いことが分かります。特に、中学校においては、ほぼ毎日使用している生徒の割合は5割を超え、全国平均を約 20 ポイント上回っています。

ICT を学習に活用する力

小	36	(1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか	44.9	49.5	▲ 4.6
中	36		56.2	52.6	3.6
小	36	(2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	59.4	59.4	0.0
中	36		68.0	64.2	3.8
小	36	(3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか	32.2	32.8	▲ 0.6
中	36		38.3	32.0	6.3
小	36	(4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	40.0	44.9	▲ 4.9
中	36		48.4	46.4	2.0

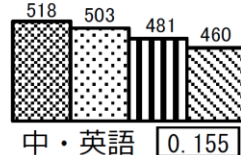
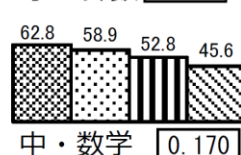
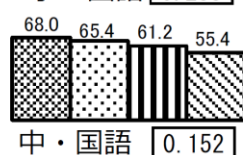
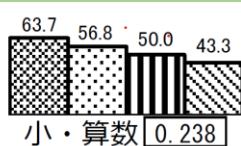
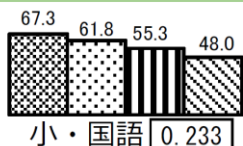
ICT 機器を活用する自信に関して、小学校では全国平均をやや下回っていますが、中学校では全国平均より高いことが分かります。ICT 機器を活用することができると考えている児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。

「ICT 機器を活用する自信がある児童生徒ほど、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。



☒ そう思う ☒ どちらかといえば、そう思う
☐ どちらかといえば、そう思わない ☐ そう思わない

タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができる



「探究的な学び」にも ICT が活用されています。

校種	質問番号	質問項目	「とてもそう思う」と回答した児童生徒の割合 (%)		
			岐阜県 (R8)	全国 (R8)	全国との差
小	48	総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどのICT機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか	41.0	40.0	1.0
中	48		40.5	37.3	3.2

各教科等で身に付けた ICT 機器を目的に応じて活用する力が、総合的な学習の時間の「探究的な学び」においても発揮されています。ただし、他の授業よりは、全国の活用頻度との差は大きくありません。

多様な児童生徒の「深い学び」を確かなものにするためには、ICT の活用を教具的発想に留めることなく、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実が図れるよう、学習者の学習ツールとしての発想に立った授業を構想し、児童生徒の可能性を引き出すことが重要です。

また、「言語能力」と併せて、各教科等の内容を通じて「情報活用能力」を育成し、探究的な学びの基盤として活用することが求められます。

児童生徒が、自らの学習を主体的に調整できるよう、多様な学びの在り方を示すとともに一人一人の学びの価値を互いに認め合う機会の充実を図りましょう。

(3) 児童生徒のウェルビーイングに関する状況

児童生徒に小さな成功体験を積みせ、その子なりの努力や成長を認めましょう。

自己肯定感、自己有用感、幸福感、協働性

校種	質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)		
			岐阜県(R8)	全国(R8)	全国との差
小	8	自分には、よいところがあると思いますか。	45.5	43.6	1.9
中	8		42.9	41.0	1.9
小	9	先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	54.7	53.4	1.3
中	9		53.4	46.7	6.7

自己肯定感、自己有用感、幸福感に関する質問に対して、「当てはまる」「よくある」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べて小学校で低く、中学校で高いことが分かります。

校種	質問番号	質問項目	「よくある」と回答した児童生徒の割合(%)		
			岐阜県(R8)	全国(R8)	全国との差
小	46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	55.0	52.7	2.3
中	46		55.5	49.0	6.5

「協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに55%以上で、全国平均より高いことが分かります。

クロス集計

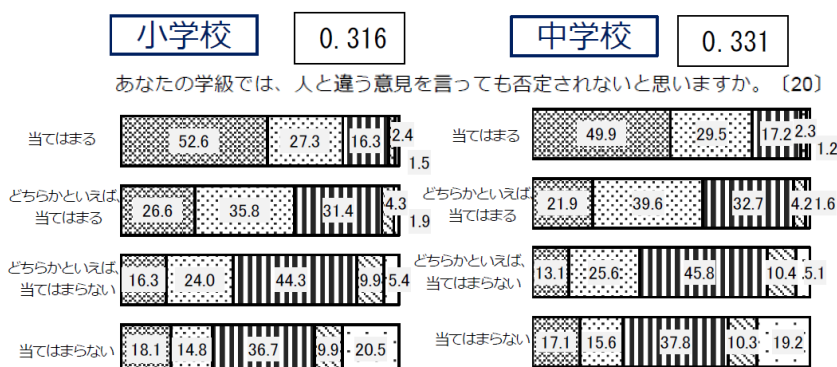
「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」×
「学級では人と違う意見を言っても否定されない」

- ☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらともいえない
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☒ 当てはまらない



児童生徒が「知りたい」「やってみたい」と、問いや願いをもって自ら学習に取り組めるようになるには、学習に見通しをもって試行錯誤しながら取り組み、その過程と結果を振り返る営みを継続することが大切です。また、仲間や教師が温かく認めてくれているという心理的安全性を確保することも欠かせません。学校全体で学びのウェルビーイングが生まれるように、個の側面と集団の側面から学習状況に応じた声かけ等の支援の工夫を考えてみましょう。

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。〔9〕



2 質問調査を踏まえてどんな改善を図りますか？

令和9年度は、どの質問に注目しますか。令和8年度の実績に基づいて、目標を何%に設定しますか。その目標値に近付くために、具体的に何に取り組んでいきますか。

本校で各職員が書き出したことを取りまとめ、学習指導部会、学年部会、教科部会、研究推進委員会等で話題に挙げ、さらなる授業改善に向けて学校全体で取り組みましょう。

質問番号	質問項目	「当てはまる」と回答した児童生徒の割合(%)	
		R9 (自校の目標)	R8 (自校の実績)